

7

KG COMPASS

junior high school

2026年
7月17日

変化を力に、響きを一つに

部長 林 武宏

梅雨のジメジメとした空気を吹き飛ばすような、熱気あふれる合唱コンクール。今年は6月最終日の開催となり、その感動と熱気に力強く後押しされるようにして、7月は幕を開けました。一般的には秋に行われることの多い合唱祭ですが、本校があえてこの1学期末にこだわるのには理由があります。それは、新しいクラスや学年としての「絆」を、早い段階ではっきりと形にしたいからです。年度のスタートに球技大会や合唱コンクールという一致団結する行事があることで、生徒一人ひとりが「自分の居場所」を実感し、クラスが安心して過ごせる場所に育っていきます。準備期間の短さを心配する声もあるかもしれませんが、私たちは子どもたちの無限の可能性を信じています。その期待に応えるように、今年も生徒たちは見事な団結力を発揮し、1学期の締めくりにふさわしい、胸が熱くなるような歌声を響かせてくれました。

当日は平日実施にも関わらず、大変多くの保護者の皆様の来場をいただきました。また、「命がけの」合唱の審査をいただきまして、本当にありがとうございました。行事が終わるたびにいただく保護者の皆様の感想にはすべて目を通させていただいています。生徒たちの成長を温かく見守り、ともに感動してくださる言葉がたくさんあり、大変励みになっております。

さて、今年の合唱コンクールを迎えるにあたり、学校としては一つの大きな課題と向き合うことになりました。それは、例年以上に「ピアノ伴奏生徒の選出」に苦勞するクラスが多かったことです。各担任や音楽科の教員もサポートを続けましたが、最終的に、伴奏者を出さないという結論に至ったクラスもありました。

この背景には、子どもたちを取り巻く「習い事の多様化」という現代の世相があります。東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所の共同調査（2015～2023年）によると、中学生の約5割が何らかの習い事をしていますが、その割合は学校段階が変わるタイミングで大きく低下する傾向にあります。また、かつて子どもの習い事を中心であったピアノ等の「楽器・音楽教室」の学習率は、少子化や住宅事情、習い事の選択肢の多様化などにより、近年は減少傾向にあります。幼少期に熱心に習っていても、さまざまな理由から途中でやめてしまう子どもが多いのが現状です。

こうした時代の変化を受け、学校としても柔軟な対応を模索しています。これまでは伴奏者がいない場合は「CD音源での合唱発表」としていましたが、今年は「公平なコンクール」という観点から一歩踏み込み、CD音源だけでなく「音楽科教員による伴奏」も選択できるようにいたしました。どのような環境にあっても、生徒たちがステージの上で等しく全力を尽くし、表現する喜びを味わえるようにするための試みです。結果として、どのクラスもそれぞれの形で見事な歌声を響かせてくれました。

そして今年、一生懸命に歌う生徒たちの姿を客席から聴きながら、私は来年度に向けた新たな夢を膨らませていました。それは、来年度のプログラムに「全校合唱」を取り入れたいというアイデアです。クラスごとの団結はもちろん素晴らしいものですが、学校全体が一つになって歌うことで、全体の合唱レベルをさらに引き上げることができると考えます。何より、中学生という多感で声量も豊かになる時期に、全員で「混声4部合唱」の厚みと美しさを肌で経験することは、生涯にわたる大きな財産になるはずです。この実現に向け、今年度から少しずつ準備を進めてまいります。一つの変化をきっかけに、私たちはまた新しいハーモニーを紡ぎ始めようとしています。私は今もなお、その未来の響きへの期待と、今年の余韻に心地よく浸っています。

さあ、明日からはそれぞれにとってかけがえのない夏休みが始まります。ご家庭でのお子様との時間も増えることと思いますが、連日の猛暑のなか、時には大人も一息入れて、心に余白を持たせたいものです。この1学期、学校という社会のなかで、子どもたちは私たちが思う以上にたくましく、そして優しく成長しました。どうかこの夏は、そんな我が子の頼もしい背中を、じっくりと温かく見守る時間としていただければ幸いです。



第41回合唱コンクール

音楽科の先生から 各クラスへのコメント

1A	「大切なもの」 優しい曲調が皆さんの声によく合っていましたね。クラス全体でテンポの感じ方があっており、歌詞がしっかり伝わってきました。ハーモニーもよくハマっていました。
1B	「HEIWA の鐘」 体力の消耗が激しいタフな曲ですが、よく歌い切りました。曲調に合わせた、明るい歌声が作れていましたね。クラスで工夫した表現もしっかりと見えました。
1CD	「Believe」 2、3年生に負けない声量、堂々とした演奏に驚かされました。強弱の変化もしっかりとつけていましたね。1年生とは思えません。一生懸命練習に取り組んだことと思います。
2A	「Replay」 本校ではまだ演奏されたことのない曲への挑戦となりました。歌詞が長く、曲調の変化も激しく難しい曲ですがよく頑張りました。昨年から声量がグッと増しましたね。
2B	「ヒカリ」 場面の变化が激しく、非常にドラマのある難曲ですが、しっかりと歌い上げましたね。練習の様子も含め、皆さんの熱量がよく伝わってきました。迫力のある演奏でした。
2CDE	「COSMOS」 高音域が多く難しい曲ですが、よく歌いきりましたね。皆さんの頑張りと成長を感じました。かけあいになる部分もキレイに歌えていましたね。ますますの成長が楽しみです。
3A	「結-ゆい-」 ポップスのノリと、合唱としてのなめらかな流れとのバランスがよく取れていました。長大な歌詞ですが言葉がよく伝わってきました。しっかりと気持ちを込める部分の緩急、熱量が見事でした。
3B	「信じる」 場面ごとにしっかりと歌い分けられており、音に乗せた感情がよく伝わってきました。特にクライマックスの壮大さはさすがでした。全体の構成を見てよく表現が作りこまれていました。
3CDE	「そのままの君で」 3年間を共にした皆さんだからできる、とても息の合った素晴らしい演奏でした。歌詞にもある「いつまでも友達で」という願いが伝わってくるようでした。

優勝 3 年 B 組



準優勝 3 年 A 組



特別賞 3 年 CDE 組



指揮者賞 2 年 内藤さん



伴奏者賞 3 年 谷川さん





プランノート・自主学習ノート研修会(AB)

本校の生徒たちは、家庭学習を自分で計画し、実行する力を養うために、オリジナルの「自主学習プランノート」を活用して自主学習を進めています。毎日、担任がノートを確認してアドバイスを送っていますが、先日、生徒同士が互いのノートから学び合う「プランノート・自主学習ノート研修会」を行いました。今回の研修は、生徒会のアクティベーション(学校活性化)委員会が企画したもので、学年の枠を超えた「縦割り班」での実施です。先輩・後輩が同じグループになり、まずは日頃から実践しているノートの工夫について発表し合いました。計画や目標の具体的な立て方、振り返り(自己評価)のコツ、具体的な学習方法など、自分の学習の進め方を振り返る良い機会になったようです。その後は実際のノートをお互いに見ながら、記入用紙にアドバイスや良い点を書き合いました。良いアイデアを真剣に吸収しようとする生徒たちの姿がとても印象的でした。最後には「やること宣言!」と題して、研修会で学んだ内容を具体的にどう実行に移していくのかを記入用紙にまとめました。すぐに自分のノートに取り入れたい!との声もあり、自ら学ぶ意欲が高まる有意義な時間となったようです。今回の気づきを日々の家庭学習の質の向上へとつなげてほしいです。



外部講演(AB) ニュース・リテラシー

本校では、毎年、外部より講師をお招きして講演会を開催しています。今年度も読売新聞教育ネットワーク事務局アドバイザー、NIE企画デザイナーの田中孝宏氏をお招きして、ニュースリテラシーをテーマにご講演いただきました。「情報」には「広告」「ニュース」「公的機関の発表」など、沢山の種類があること、またそれぞれに目的があり「自分のために伝える情報」と「他人のために伝える情報」に分かれることを学びました。またAIの発展が著しい昨今では、「情報」自体のソースへの信頼性も大切なポイントであると気づきを得ています。以下、生徒たちの感想です。

・私たちは意識していないだけで、たくさんの「情報」の中で生きていて、その中でも多面的に物事を捉えることが大切なのだと気づきました。今はAIが普及していて誰でも簡単にフェイク画像やニセの情報を流せるということの自由さと危険性があることに怖くなりました。今後さらにAIが普及して情報化社会が築かれていく中で私たちは何が正しいのかしっかりと見極めていくことが大切であり、共存していくことが不可欠だと思います。

・いつも自分が何気なく使っているインターネットの中には誤情報もあると知っていたものの、画像やグラフなど視覚的にだまされてしまうものは注意していかなければいけないと思った。そしてインターネットのアルゴリズムによって興味のある意見が流れてくるのは一見良さそうに見えてしまうものの、フィルターバブルなどの現象によって考え方が閉塞的になってしまうと思う。これから生きていく中で、すべての情報をそのまま鵜呑みにすることなく、本当にそうなのかと疑問を持ちながら情報化社会でAIと共存できるようにしていきたい。

CDEクラス合宿

7月7日～9日にかけて千葉県南房総にて合宿を実施しました。3日間天候に恵まれ、予定していた活動は全て行うことができました。去年は山中湖周辺にて様々な活動を行いました。今回はガラッと雰囲気を変えて常に海を臨む場所での校外学習となりました。生活スキルトレーニングや多彩な体験のもと、充実感を味わえた3日間でした。

1日目



1日目は、アクアライン～海ほたる経由で鴨川シーワールドに行きました。海に面したこの水族館テーマパークにて、イルカやシャチのパフォーマンスショーを大に楽しみ(特にシャチが飛ばす水しぶきに大興奮!)、ウミガメについてのレクチャーで保護の重要性を学ぶこともできました。生徒たちは他にも展示されているさまざまな海の生物を見飽きることなく、最後まで笑顔が絶えなかったようです。その後、宿舎であるサンセットブリーズ保田(ほた)へ。海沿いにあり、名前の通り心地良い海風を感じ、美しい夕陽が見られる宿でした。



2日目



2日目は、午前中に多々良海岸へ行き、地引網漁の体験をしました。漁師さんたちの指示のもと、全員で地引網を海岸に上げる作業は、予想以上に大変でした。皆一生懸命に頑張りと、引き上げた網の中になぎやヒラメなどの魚たちを見つけ、大喜びでしたが、漁獲量としては、「渋いです…」(漁師さん談)、ということでした。当日までに雨が降ることが多く、川の水が流れ込み、ゴミもいっしょに入ってきたことが影響したそうです。そういったことも学べて、とても良い体験になったと思います。

午後は3学年縦割りの班対抗でのレクリエーション大会。3年生がリーダーシップを取って班のメンバーをとりまとめながら、学年を越えたコミュニケーションが図られ、いつもとは違った楽しさ・盛り上がりを見せました。そして夕食は生徒お待ちかねのBBQ。海に沈んでいく夕陽をバックに食事をとるといって素敵な雰囲気の中、焼きたてのお肉をお腹いっぱい味わいました。





CDEクラス合宿

3日目



3日目は、お世話になった宿舎を後にし、東京湾フェリーに乗船して久里浜へ。乗船中は快晴の中で海風に当たりながら、きれいな海の景色を楽しんで気分上々。下船後、世界三大記念艦三笠の見学へ行きました。東郷平八郎の像をバックに記念撮影をした後、戦艦に入り、案内の方から概要の説明を受け、艦内をクラスごとで見て回りました。生徒たちは様々な展示や大砲の迫力に興味津々な様子でしたが、同時にこのような戦艦が活躍するような世の中であってはいけなと、平和の尊さも学ぶことができました。

見学後は横須賀のホテルにて、昼食として名物の横須賀海軍カレーを美味しくいただき、帰路へ着きました。

3日間、様々な体験を通した学びだけではなく、縦割り活動もあったことで、3年生は最上級生としての自覚を強くし、2年生はその3年生を見て、来年は自分たちがその立場になるんだという責任感を抱き、1年生は先輩たちの立ち居振る舞いを見て中学生らしさを考える、そんな意義も深められた校外学習となったのではないかと思います。



図書室より



図書室は、今年度も主に昼休みとテスト前の放課後に開室を行いました。昼休みは行事練習などで忙しく過ごす中、時間の合間を縫って本を借りに来たり、読書をして穏やかなひと時を過ごす生徒がいました。テスト前の放課後開室の時間では、集中して勉強に励む他学年の生徒の姿が良い刺激となって、「いつも以上に勉強がはかどった！」と嬉しそうに話す姿が見られ、有意義な自主学習の時間となっています。

図書室の仕事は、CDE組の生徒のみで活動する学校生活推進委員の生徒の中から、図書当番を担当する生徒が担当しています。書架整理、新聞整理が主な仕事ですが、リーダーや3年生を中心として、本にまつわる新たな取り組みができることを楽しみにしています。また、1年CD組の生活教養の授業で、新着図書や廃棄図書の整理を行ったこともありました。司書の指示をしっかりと聞いて、地道な作業に集中して取り組む姿がとても頼もしいです。

図書室はこれからも「自分と向き合う場」として機能していくことを目指しています。興味を持っている事柄について調べたり、静かに読書をしたりする時間を持つことで、自分の気持ちや考えを整理し、新たな課題や挑戦に落ち着いて臨むことができるようになります。日頃活動的な本校だからこそ、生徒一人一人がそういった時間も大切にしていけると良いと思います。(司書教諭)



防犯教室(AB)

7月9日に東京都生活文化スポーツ局都民安全推進部の方を招いて「SNSによるトラブルの実態やその防止策」をテーマに防犯教室を行いました。昨今、AIの進化により様々な状況においてそれを活用している人たちが増えてきています。スマホで撮った画像もその技術によってその場所や時期がわかってしまうことを知り、生徒の感想にも「画像の管理には気をつけなければ」というものが多かったです。また講演の中で、自宅一人でインターネットを利用していたとしても、自身は「世界最大の町」にいるという意識をもつことが大切で、実際人前でできないことはやらないようにというお話があり、生徒たちも納得していました。

スマートフォンは便利である一方で、自己責任のもとに使用するものです。法律やマナーはもちろん、家族で決めたルールなど身近な約束も大切にしながら安全に使用してほしいと思います。



保健室より

保健室には、けがをした生徒や頭痛・腹痛などの体調不良を訴える生徒だけでなく、心が疲れてしまったり、困りごとを抱えていたりする生徒も来室します。また、うれしかった出来事や頑張ったことを報告してくれたり、少し気持ちを落ち着かせるために立ち寄りたりするなど、その目的はさまざまです。保健室は、心と体の健康を支える場であると共に、生徒が安心して自分らしく過ごせる居場所でありたいと考えています。授業をはじめ、クラス、行事、部活動など、多くの場面で学びや成長の機会があります。その中で、喜びや達成感を味わう一方で、不安や悩み、悔しさなど、様々な感情を抱くこともあります。こうした感情は誰にでも生じる自然なものです。大切なのは、感情に振り回されるのではなく、自分の気持ちに気付き、落ち着いて次の行動を選択できる力を身に付けることです。そのような「自分の気持ちを整える力」を育む取組の一つとして、各階および保健室前にカームダウンルームを設置しています。気持ちが高ぶりそうな時や不安を感じそうな時に、一人で静かに過ごし、心を落ち着かせるための場所です。水を飲む、深呼吸をする、少しその場を離れるなど、自分に合った方法で気持ちを整え、落ち着いて物事を考える時間として活用しています。保健室で話をした後利用することもでき、生徒一人ひとりの状況に応じた支援につなげています。

保健室では、生徒が安心して自分の気持ちを言葉にできる環境を大切にしています。「今、どのような気持ちなのか」「何に困っているのか」「どのようにすれば安心して学校生活を送ることができるのか」を生徒自身が考え、自分なりの方法で気持ちを整えられるよう支援しています。一人ひとりの思いに寄り添いながら、自分の気持ちと向き合い、よりよい行動を選択する力を育てていきたいと考えています。夏休みは、ご家庭でお子さんとゆっくり話をする機会も増えることと思います。学校での出来事や日々の生活について耳を傾け、お子さんの思いに寄り添いながら対話を重ねていただくことは、お子さんが自分自身を理解し、安心して気持ちを表現する力を育むことにつながります。学校と家庭が連携しながら、生徒一人ひとりの健やかな心と体の成長を支えていければ幸いです。2学期には、様々な経験を重ね、心も体もひと回り成長した生徒の皆さんと笑顔で再会できることを、楽しみにしています。

(養護教諭)

6月後半、7月前半の部活動試合結果

陸上競技部

- 第72回全日本中学校通信陸上競技東京都大会兼関東全国予選会
(6/28 上柚木陸上競技場)

2年 鈴木さん 100m 12.18 優勝

祝 全国大会出場

U16 日本陸上競技大会参加標準記録突破!

女子4×100mR (長谷川・鈴木・山本・星野) 50.07 優勝

祝 22年連続関東大会出場

U16 日本陸上競技大会参加標準記録突破!

3年 長谷川さん 走幅跳 5m19 2位入賞

3年 山本さん 円盤投 24m46 7位入賞

- 慶應大学陸上競技大会(7/12 慶応大学日吉キャンパス)

3年 長谷川さん 100m 12.70

サッカー部

東京都中体連第10支部夏季大会兼都大会予選 (6/28 学芸大中)

決勝トーナメント2回戦 対 立川七中 1-2 負け